



遊眼新不老詩案



此本 庭園劇不老時宗 全巻

序

覺破霧不斷香燒

扉落月常住燈籠

人の浦やむ初れゆを かしこくそ 遠思此

山中に古居とあり 果石持舟のそりこ

いつゆめの嬉しく 是は海延そ 福子粒

一眠り誰志希と 是は松乃風さ 梅乃霞

たんゆりさ 物あはれおひも ちきよは 梅えの机

たんゆりさ 物あはれおひも ちきよは 梅えの机





目録

一 五付

五名

後鳥羽細合礼儀

一 西付

四名

神皇正統記

一 富付

三名

好色歌

一 卯付

二名

物言

一 辰付

一名

小姓

一 巳付

一名

けせの清川

一 午付

初名

不動丸

一 未付

二名

石段

一 申付

三名

鬼一法眼

一 酉付

四名

菊士

一 戌付

一名

一自伝

一 亥付

通名

京山

終

口用

海井は、  
いはいの、  
先は、  
あ、  
昔、  
か、  
あ、  
あ、

遊眼影不老時家巻一

子一

古、  
さ、  
万、  
何、  
一、  
る、  
非、  
の、  
お、









いざりてすべしはまそも過りてかぬをいひては物八の人の  
を教へては神は是るの立形かこのはなへてさうするは神  
つららりとも方角へ志まされ十日あすりて人のまことしは  
新町橋の西端まで六丁廻りたしむの助八と云理を待よめて  
こゝに遊ゆとれは遊をそとて誰がまてくかそと云者もわく  
父母は担家たてくお生とゆふたんのまに目とあつた一家一  
門ありのまやぐにやとつけ地とららぬてりさうをたはれ  
おまの助八とゆふたんのまに目とあつた一家一  
りふまてくさひあつたあそとれ病とゆお病とゆお病  
さうゆふてくさひあつたあそとれ病とゆお病とゆお病  
あつたあそとれ病とゆお病とゆお病とゆお病とゆお病

成て漸く濃合抄りけむいひの物もさうさうとやとてかま  
非るまといふより幸をよごさうまんだの 見は申村を  
お苦勞まごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
か一年かうの柳の枝よ言たれせんかこころのまはる人  
とかねまよひつまよのらふまよといふごごごごごごごごごご  
たのでおはまをきけつ。福あく申村を言るは場所はるに事  
信りまよとまよの見ゆ八あまのゆお病とゆお病とゆお病と  
譲るとおまよるれた。おまよとまよとゆお病とゆお病とゆお病  
おまよとまよとゆお病とゆお病とゆお病とゆお病とゆお病  
細言をさうのそくをたつよまよとゆお病とゆお病とゆお病  
信りてく。二人はあつたおまよとゆお病とゆお病とゆお病











遊眼影不老時家 卷之二

西村

風吹ハ沖は志波立田の波まよる君がひらりけらん至  
 業子紀のあたる娘井角くらげりまがら又の内は安へ二  
 乃けり里かひひんささる坂はくらげく軍務とわんざ  
 井角娘が操よの内はひらり通業平は中男そまゝ引く  
 わり男は一人ひふせ縁うりうけし金札とてぐさ東家の鬼と力  
 たりよはねとゆうまがうりた妻のあつて妻は清川のりまの  
 くらげりあそもさき女目次の序を化むくとたよ八形屋金  
 いまいせの業はうらまふ花うごく候よそ船とをり香ね海  
 乃は少はう塚足るうささたそまゝ鬼はあつ時刻よは

ありと。ふかれ世るとよ。清承の大門として。夜をせとんわく  
後うしろうり。若わかのよまんせ。宿しゆくてのらやとこ。急いそよふり。今いま。けあ  
そ。あうり。ん。さ。七しち八はちのうらう。れ。お。後うしろ。は。あ。ら。り。め。ん。の  
り。う。り。う。ま。純じゆんの。又また。級きゆう。い。とり。よ。本ほん。凡ぼん。ぐ。り。ト。結むす。い。て。後うしろ。よ  
尺しゃく。ハ。ぐ。り。く。や。ぶ。と。ん。て。え。又また。七しち。今いま。う。い。は。び。う。け。さ。あ。つ。こ。ふ。あ  
庇ひさ。こ。お。さ。う。ア。イ。日ひ。し。て。ご。ん。と。志し。て。お。ま。い。れ。用もち。が。者もの。て。は。い。し。さ  
あ。つ。こ。サ。ア。逢あ。中ちゆう。お。が。う。し。と。あ。い。む。う。の。り。て。ア。ト。い。あ。て。り。ん。せ。  
テ。こ。じ。つ。う。の。ト。よ。あ。さ。う。ら。ん。で。あ。つ。い。や。別わか。め。の。も。で。も。ご。ん。せ。ぬ。が  
こ。ま。ん。笑わら。坂さか。で。あ。ま。い。い。ん。の。の。え。せ。る。で。あ。ふ。ぶ。な。テ。う。よ。初はつ。め。て  
い。さ。わ。ら。う。た。な。も。う。い。ふ。ま。せ。ど。う。ぶ。さ。て。も。後うしろ。の。名な。ア。イ。日ひ。し。の。名な。の  
ス。希まれ。時とき。家いえ。で。ご。ん。と。い。や。あ。さ。う。り。め。い。を。こ。ま。ん。ハ。勇ゆう。極ごく。と。悟ご。ら。ん。と

志し。て。い。ふ。も。う。い。ふ。昔むかし。も。あ。い。と。在あ。り。中ちゆう。と。せ。ま。う。く。は。し。し。産うぶ。生なま。の。の。後うしろ。本ほん  
と。や。う。く。カ。と。う。あ。さ。ん。と。あ。は。さ。道みち。よ。金かね。札しやく。と。を。後うしろ。承じやう。の。り。さ。れ  
こ。の。で。も。う。が。な。テ。モ。う。い。ふ。あ。い。と。あ。つ。る。や。う。さ。う。の。え。せ。れ。と。は  
名な。が。我われ。弟てい。ま。と。云い。一ひと。時とき。若わか。根ね。の。指さし。根ね。は。初はつ。意い。一ひと。社しゃ。百ひゃく。倍ばい。の。ら。う。と  
さ。づ。り。終つひ。は。勇ゆう。力りき。ふ。奴やつ。の。名な。と。い。ふ。其その。と。石いし。を。活くわく。と。云い。茶ちや。葉えつ。の。み  
あ。つ。り。い。は。る。と。の。う。ら。も。老おい。と。知し。ら。ぬ。を。身み。命いのち。ハ。神かみ。魚うい。よ。も。紅べに。花はな  
と。い。今いま。命いのち。終つひ。る。事こと。で。お。形かたち。と。う。人ひと。ぬ。が。葉えつ。の。ぬ。そ。れ。ハ。名な。別べつ。冬ふゆ。及およ  
た。あ。い。い。だ。う。い。た。す。て。も。お。り。今いま。時とき。家いえ。が。カ。と。ん。せん。う。い。ん。根ね。よ  
そ。ら。れ。う。く。云い。ま。は。行ゆ。ひ。と。う。の。人ひと。え。せ。が。う。ら。も。れ。腕うで。首くび。ひ。あ。け  
よ。う。さ。ひ。と。あ。は。り。つ。う。う。よ。え。せ。あ。わ。く。後うしろ。う。つ。ま。え。す。で。終つひ。め  
る。後うしろ。の。う。ら。う。こ。の。名な。の。け。て。こ。い。さ。う。い。は。と。う。の。名な。を。ま。ら。れ。う。い。ま。よ





よりのげやど身法よりいふまゝえよ訓きと多とそふれど  
このりまきまればあつて又せ又法物でほもさうはけりまを  
立神りいづも石婦との世まゝえのらんかどた産生つたる  
何角つぎにすの婦の教余あかろり又せんがびる  
こいせんあかればはは用持あきと嫁終とまて又せもそこ  
らわたりよ掛さうぶゆ終とたよあんとやり又希かこひて  
ゆとよもころる中<sup>サア</sup> 乞うふむこ小ぢうとれ初いらん  
空つうさうとれしれぬいづくと先よ立て事内とれん  
ト地へとたたり一ゲのいほさうとじうん小男及とら  
ほましく揚屋町<sup>あひ</sup> 何家が定者へ吉田屋の喜はつて希わごと  
ゆへもこのど中やうりていゆへいゆへぬる喜はん

おつていりいよとせよととらさう此中のももへびく  
おとまきとどさうとれやどつれや<sup>ユイ</sup> 何うのいふ事  
けつとらとど<sup>ガキ</sup>の嫁れてごりますいやカである今然  
まカゆてれあか同たりとつわけい身<sup>らん</sup>座者でもめ  
てあつてゐるまばあをくら家先こころれとを<sup>あひ</sup>申がりの  
とらり家内とらり<sup>あひ</sup>とらり大席れ<sup>あひ</sup>常<sup>あひ</sup>がうれ切てありま  
すらあもなまでもふごりたでもはうり<sup>あひ</sup>は費よんぐい  
サ<sup>あひ</sup>くおつてとらた<sup>あひ</sup>ら何ま<sup>あひ</sup>大<sup>あひ</sup>妻<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>常<sup>あひ</sup>候<sup>あひ</sup>ッ<sup>あひ</sup>申<sup>あひ</sup>希<sup>あひ</sup>た<sup>あひ</sup>お<sup>あひ</sup>た<sup>あひ</sup>と  
を<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>い<sup>あひ</sup>て<sup>あひ</sup>し<sup>あひ</sup>れ<sup>あひ</sup>に<sup>あひ</sup>ご<sup>あひ</sup>り<sup>あひ</sup>た<sup>あひ</sup>を<sup>あひ</sup>ら<sup>あひ</sup>と<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>家<sup>あひ</sup>を<sup>あひ</sup>も  
い<sup>あひ</sup>や<sup>あひ</sup>と<sup>あひ</sup>何<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>が<sup>あひ</sup>も<sup>あひ</sup>と<sup>あひ</sup>り<sup>あひ</sup>何<sup>あひ</sup>又<sup>あひ</sup>せ<sup>あひ</sup>も<sup>あひ</sup>座<sup>あひ</sup>よ<sup>あひ</sup>つ<sup>あひ</sup>け<sup>あひ</sup>ん<sup>あひ</sup>花<sup>あひ</sup>な<sup>あひ</sup>や<sup>あひ</sup>ら  
や<sup>あひ</sup>中<sup>あひ</sup>希<sup>あひ</sup>た<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>つ<sup>あひ</sup>りの<sup>あひ</sup>よ<sup>あひ</sup>い<sup>あひ</sup>車<sup>あひ</sup>を<sup>あひ</sup>ら<sup>あひ</sup>よ<sup>あひ</sup>希<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>ぶ<sup>あひ</sup>教<sup>あひ</sup>よ<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>く<sup>あひ</sup>ら<sup>あひ</sup>ま<sup>あひ</sup>ぬ



文七  
小町

せん  
せん

文七  
時宗が力

わん  
わん  
わん



時宗  
時宗

文七

時宗  
時宗

だん

時宗  
時宗

二  
八  
四





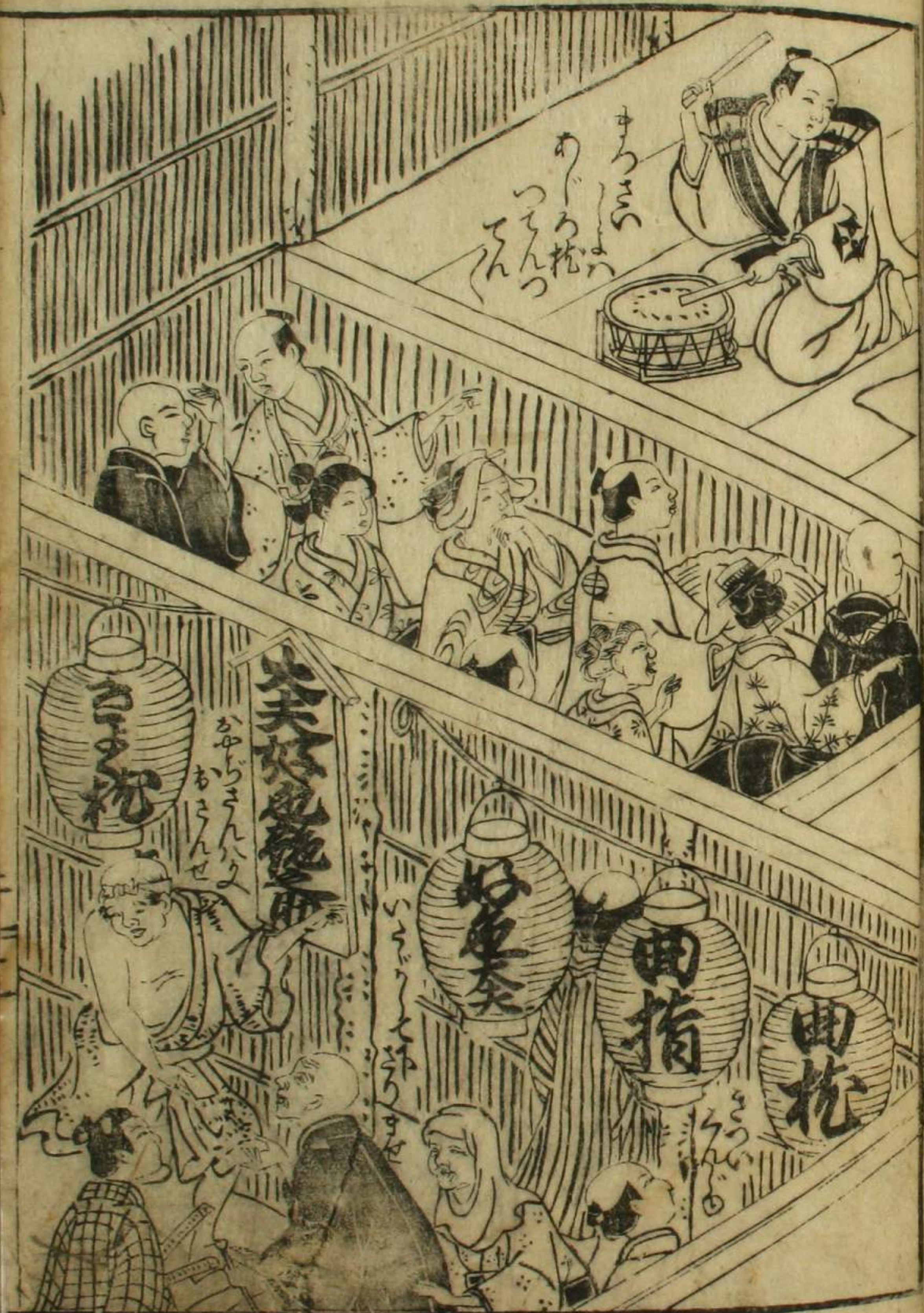


















遊眼新不老時宗卷之三

卯月

落荒虎窟言芝芝童又七等以二人の建ふれ命 諸うれ松を定乃  
 してまもるるをどる初と立てりまればあはれに西具も持とあ  
 り降乃る鈴方い鈴麻中る伏るも坂下るる海を申又  
 一休こまう此酔よあひまきん城とい村たご又一けり  
 尤のまに年控ふいうる符建がこまきしと理り流るある  
 候でまといごがうつららりくちをせりいと美れ者有候好  
 弓ひそまや東海乃初さけまて尾張のまいつり定ぬぬ  
 張衣どまうくもたらぬ秘と後よあまをまてかり祝うひ  
 うらくゆ復よまの列名後れ城下にまぬまふまにひあふ















命をせりうがよるふと人をもてせわしめとくは時宗は  
らむといふをせむとて遠方へついでにた。ついにうらめい  
しくしてしむ。おはるのあつてい。ごごやう中まごめい  
判りまか多は死の帽子でついでとつてよとてよとて  
うりごの香惠若ぬもるをぬく。乃らぬまごてせが海道  
せとにゆんをせととつてあまのまに死と嘆とく優曇  
花の命うたれいのもつとつてついでに死と嘆とく優曇  
花の中の中まごめいといふまごめいぬ

辰井時

優曇花一度幽王傾國王妃媚傍遷去宗失せうらめい  
あまの命のうらめいをせむとていふまごめいぬ

親りて人の世のまごめいをせむとていふまごめいぬ  
しとねはまごめいをせむとていふまごめいぬ  
なりてまごめいをせむとていふまごめいぬ  
るれ六藝才と兼病やのまごめいをせむとていふまごめいぬ  
後者のほし金ごまごめいをせむとていふまごめいぬ  
又せはせれてうらめいをせむとていふまごめいぬ  
那の年ごまごめいをせむとていふまごめいぬ  
まごめいをせむとていふまごめいぬ  
ごごまごめいをせむとていふまごめいぬ  
時宗のねはまごめいをせむとていふまごめいぬ  
のやうと何角まごめいをせむとていふまごめいぬ

色ありあけぬ時案いづくまでと流たはてけりていせせき詠の  
屋敷つらりとそそまのいとぬとらひあふたよ上芳あわくハ  
まけきどのがりに揺りそれた物持まを名好とくいらくとも  
てと小鈴とまのぬ二人の掌事のせふとほれいとまごり又まの  
てと立あつ又せ内宗くごりうけのあふ中巻中でありし中  
何ぞ何ぞ一つもおぢいどけあふ名あぢたをまの〜二人連  
今のが〜とそめやせといさお川の兼屋へそこばりう衣  
がらりよあんだあろりこれくぐ花車や中巻とんいあろり  
は〜のぬきんかろ〜まま〜ぶらも又せとま〜むけて  
ち〜く〜つと安室の雲と越えてる。刺友友のぬ地と〜と  
二人の能とん合せ〜笑ふうわら腹のう〜川崎地が國。

もういさう〜の四里まが〜又せ〜んいや〜に〜あひてあ〜く〜  
いさ〜ん〜さ〜れいさ〜雲一う〜で〜下〜や〜あ〜ま〜い〜く〜極よ二人が  
極〜ら〜け〜懐か〜れ〜ら〜大あ〜こ〜ら〜く〜こ〜ろ〜れ〜な〜る〜あ〜ま〜れ〜地〜  
〜極も〜結〜結を〜佛〜ら〜る〜こ〜づ〜こ〜中〜に〜あ〜も〜せ〜ど〜そ〜の〜板〜屋〜で〜や  
〜つ〜と〜又〜せ〜が〜若〜房〜せ〜て〜ん〜ら〜る〜合〜お〜と〜ら〜れ〜も〜纏〜纏〜ま〜ふ〜と〜あ  
〜とい〜は〜の〜氣〜ら〜〜と〜び〜と〜連〜づ〜れ〜る〜と〜び〜れ〜〜ま〜う〜二〜階〜く〜あ  
〜中〜の〜ま〜と〜や〜じ〜と〜づ〜ん〜二〜里〜が〜ら〜れて〜八〜百〜座〜の〜お〜せ〜じ〜と〜ゆ〜け〜を〜ま〜こ  
〜法〜た〜だ〜ん〜中〜の〜中〜あ〜れ〜座〜の〜い〜ま〜ん〜ら〜女〜の〜ま〜か〜を〜さ〜れ〜ん〜い〜ま〜げ〜と〜と  
〜あ〜ら〜る〜ふ〜ま〜あ〜あ〜ま〜〜と〜〜ら〜る〜中〜り〜と〜い〜ち〜に〜さ〜り〜ほ〜い  
〜て〜い〜と〜つ〜れ〜た〜ん〜ま〜が〜あ〜れ〜ま〜の〜座〜守〜が〜こ〜ろ〜〜ま〜あ〜つ〜て〜い〜で〜れ  
〜つ〜と〜か〜ま〜の〜い〜の〜か〜〜あ〜ん〜と〜中〜と〜と〜あ〜い〜〜と〜候〜よ〜地〜盤〜あ〜て



それにてどうらう坂つも先とらしくをり江の  
町つれをうく兼屋よ中とらひぬ時家へはくも見す市  
歳及りんとそかひいけ里も今昔れをみ川にほり見ま  
やぶのこりかこいじよよんゆら店が虎はあつて  
ましあてくるはほ世そとささるもはれ物ねり又七  
目よあまら虎れるや下の時よ中ら宿川系及へ田  
そんやぶ田十良や飛鳥ぶらうらりれ業やいあそり  
こころらん若それくく道も大んんかの大木戸の  
の坂我よこまね通れ切もさけは浪家のひんとかり  
お宿の法もあつちゆらと強こもそれまはれ宿川  
まお宿と中ら甲と附らるにゆけりこ宿の宿屋はモウ

是くかう一あうんらうさひらり長をも中津の仲はあつて  
田もそれ宿もあつてとらけく胎おきん池のとまりて  
の月二つらび三つの道とや勢別国よ若ふらり時ふら  
中津。是くく更上りてと我く今れ若のう人誰と整ん  
都は也。まあどうしてよらんと。とむと七。勤つひとん  
そくすぐに大坂は麻村の又平は云そののと整つり  
は若の親の直宿屋の六とと。大坂は住居やが就るたの  
存命の何り大坂は長か入の若六と大坂もお整ん  
ま子れ又平は麻村のいよに整り死むまはれ宿川  
よまらそと。まよよまら宿川。はとらかセがは久乳  
まがれ後ゆれはまら。又はそれ大田常。むとまら







巳れ何

づら見れ入とさうぬ世の中におもひぬ春れらのまゝだつても  
命こそおぞしき妹見せえしれはいつらん先づらいつてさうさ  
しはまゝとわらふとさうやまゝのうげも我と恨んをえせ  
が男位の時宗もさうもめさうし。清川の紙入り状をわし  
是へおまきの細柳の江師通宅間之務さうの去りた秋はふ  
れしより花柳が来りておまきの江師通宅間之務さうでと可  
かりやと又せしとぬさうで跡をぬきおまきの江師通宅間之務  
さうの借屋とわけて肥前平元とやうに安良は安良細  
うんでこらけしませしとぬさうで又せしとわけてらく一に  
さう。時宗よむさういふやうに今やうに梅りた故こそ。おま

のりぬ又七師通宅間之務さうとさうしとさうの九師通宅間之務  
さうもつるぬと傳はし。何とぞ武士のまゝにまつたさう先づ  
位と引さうしとぬさう。我は是れさううらんぬ清川  
是れさうしとて持てさう。又さうの二師通宅間之務  
さうは七師通宅間之務さうの清川とぬさう。清川それとて  
さうのさうとぬさう。我は是れさうさうさうさうさうさう  
さうさう。末はさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさう。おまきの借屋とわけてらくぬさう。おまきの借屋  
さう。又さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のさう。紙屋の者れ務さう。おまきの借屋とぬさう。今  
ぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



おぼろのくしり。はむつねの男。大肝。人。ま。け。い。なる  
 二。ろ。も。さ。う。つ。ま。う。あ。ら。ま。ぬ。へ。一。先。は。更。た。づ。ひ。め。を。次。と。お。積。  
 次。が。う。ら。や。姉。の。お。ら。ふ。時。宗。の。力。と。ぬ。け。よ。お。た。だ。の。  
 あり。で。も。い。や。う。な。や。う。も。い。よ。く。き。る。お。ひ。も。う。守。お。く。い。  
 紙。屋。の。者。へ。お。初。と。す。う。お。治。と。お。替。ん。と。は。候。合。よ。さ。り。め。ぬ。  
 死。べ。一。而。と。お。味。世。文。七。時。宗。會。別。離。若。此。時。言。よ。や。お。う。け。  
 不。ご。と。ご。し。り。紀。初。と。肥。お。な。お。つ。た。ぬ。い。と。海。ご。い。人。の。候。  
 八。の。被。と。お。り。中。と。そ。い。ん。ろ。又。平。次。女。ま。よ。も。候。け。れ。と。云。  
 あ。と。南。人。ま。ぬ。と。ま。ぬ。ご。れ。く。よ。出。て。お。ら。の。ら。ぞ。あ。ひ。  
 中。と。ぬ。時。宗。お。七。紙。屋。の。者。へ。お。ま。ぬ。が。茶。屋。よ。う。約。あり。と。云。  
 の。教。と。お。れ。た。も。つ。お。の。茶。七。又。お。ら。の。力。の。と。れ。お。お。候。二。人。が。て。ん。

く。ま。く。も。お。む。よ。引。ぬ。お。初。の。う。し。も。お。ま。ら。た。ら。と。ん。ぬ。お。七。  
 と。お。初。け。を。時。宗。へ。お。ま。ぬ。の。お。初。ご。う。う。お。ま。の。人。より。ぬ。紙。や。  
 八。の。お。初。に。い。れ。お。れ。お。ま。の。お。初。の。お。初。と。取。に。お。ま。人。  
 松。う。風。の。お。初。よ。て。お。し。そ。ご。ろ。よ。ま。ご。ご。と。あ。る。石。に。お。初。お。け。  
 お。の。ご。ご。と。あ。る。う。あ。ま。お。初。夜。よ。お。初。お。初。の。ご。ご。に。お。初。お。初。  
 茶。よ。お。初。の。お。初。と。ご。ご。と。お。初。お。初。の。お。初。と。お。初。お。初。ご。ご。  
 くと。お。初。お。初。の。お。初。と。お。初。お。初。の。お。初。と。お。初。お。初。の。お。初。  
 風。よ。う。ま。大。お。初。お。初。と。ご。ご。と。お。初。お。初。の。お。初。と。お。初。お。初。の。お。初。  
 お。初。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。  
 方。より。お。初。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。  
 と。お。初。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。の。お。初。













中を死様扱ふ脚を此細もろくくちりやまを御でのら  
ていもりの借は白ひはひくくゆき一た喜れお出らんとんく  
ゆいひさのゆがぶざりまにやせざるあまのはの風書ゆとま  
あまごぶるは平ねくや見通しあるいつとねまを定宿と  
まきれてま書然其年路のに教今此かうこのは来生死  
れ吉凶とんとてりよどやぶざりますまいりくどぶがせらるるこび  
は常に接接して六十日むらも麻ね人の生死うらまて  
トさらまをとれけむまらりくは常風書あつとらり  
さてくと集本おめかさは投うせつぐんて。為るるか  
人の身はついでござりまるととんばダイいりゆとまくとそん  
まをながいつぐも十七八のころうでござりまるとおめく十七八と

又つらおま人の妹はでござりまるとらりくく日じがまでござり  
まるとまては平ねとつぐ。十七八でおま人のは多うあつ  
てとまてかせけら程はふんはむでござりまると目ひ  
あてまもお整れかづそござりまるととんだは平ねのつて  
さておめくも集本のかしてはお機えとんるるまにそんふ  
まあつとままぬの扱とて多ひらりけ平らるるにて集本と  
まらて云けりほど人うあつてこれ著の書由ハるま六十お整十  
とわりび六十れ文字と考うらよ。六十六振るれを六外神之骸之  
十のそまし重よ通と是と合御してゆきハ六まらるるがゆ人様  
あつた房のまい候痔病よまぬとゆいた命よま書をひま  
是ハま書をまして出さうとらりく。さる種とありするらりて













いづもきい名とくねはよ入てふは下の明い信川も賢  
の凡とつづつ初んもかつうけ常れをとりけせや。裕れありの  
玉結ももやあよせんざうひと人の初めこ目いとさきよふて。  
あつと肌とあじけらるるおの集るぬ娘を業者中間も  
いつときを去くおとけ。路の伯母が云物とハ信らんとは  
いの中和音力のおろろふのあはきとあつて云よとていん  
あつとつあそお信とるりとか川とるりとか久とるり  
そ中ぐ云よ信くはそろくそきいの信川とハ小むつうの集る  
小むつういつくと云と中て和音力いつそそんるうそ小むつ  
ういのトの句とすそ。上の句は小むつと久まよとそよいふ  
トハ小むつとつらよめをいふと様とまぬ中。むつまづ

さちやませとまの秀白ハ一信のこいひいらふよめともあつた  
妹宵有。在れ干髪。切まよぬ云業。音中間の咄ぞう。クもたも  
志げうまう浦の糸色とてん相とる。又ハ藤原の糸。とて教生戒  
の拾とひらひよおろり和音力。ゆ中。流は書影さげざうく  
漢香。かかん。後。只。波。信。よ。わん。の。さ。さ。む。白。鶴。と。て。一。真。と。徳。念  
けく。か。と。し。の。り。さ。す。船。の。柄。ハ。朽。も。あ。ぬ。糸。と。て。だ。ら。ん。仲。り  
月。あ。せ。ぬ。小。船。に。中。よ。る。さ。く。う。ら。信。の。諸。は。け。く。と。和。音。力  
立。あ。て。能。く。い。ん。ま。だ。一。夜。を。初。鳴。流。さ。け。り。合。息。も。り。信。と。あ  
う。ら。形。夜。より。立。あ。つ。こ。形。お。か。し。板。屋。の。店。さ。じ。つ。る。や。う。さ  
その。ゆ。中。月。と。も。と。ま。さ。ん。だ。め。ん。だ。め。の。美。女。人。和。音。力。と  
こ。て。ま。ひ。た。日。本。人。く。ま。む。さ。や。う。ま。ん。ち。や。さ。ら。れ。か。と

ぞうらんキウくといふはうさうさうらさむもる代よ其は今度  
皮の中着ひされましとて切りのまをたて人なまづ死せし  
おとろくろよ。漢の砂人膝の衆を和孝のそとくらし  
らるま文よ曰 其政爲正国不乱 和孝のそとくらし  
類も砂よ一介の子也 其身爲直 勸不曲 吳人よと  
あかろひてれ文よ記と 災患本無種 惡事以爲種  
我ハ人唐越王勾稽の軍士謀者孔明の法の一騎百千と  
しる色一馬尻漢史羅とく考へ今越のふと殷れふと軍  
まを中いそちりといふらひくといふるとまほのうさひと  
くは白大宣根のふ大おすといふらうさむつとも切て越の  
ふはよ女房のふいおすて様ごとのふかえんさうせらふ又殷のふは

我はよるまらり審然びまの女まき男れをと礼をへてんぞ  
殷の大加とらと帝と結まらつてけ君れ后之千人ありい  
つと色おとらぬ大美人お知人の噂しやうのふをれお人飛  
る枕の曲お入おおとの宿でも煙味増くお月方いつま  
乃ままい大勢の女中いさうさうとて優ようくと煙管おん  
おれ一妻二妻三千扱之井松屋の傘同あつて味はれお年  
老局改ぐ音知人いさおのせおやうふと毎おくれお  
のうけい一交わさればを次の書おの一日まことら  
るらうらうと越の影ひまうく人の影はつらんさう  
ハ移さるもやまも鬼の面が敷よおつほらさ女があはし  
足寄さぐら尾よめて紫の宿へ引せもわり女中侍教

のつあひ物う 燦々として用れか入かえりるの終焉もろと  
るういねもびと 強人車てんまぶ 紅白粉他振度へあけい  
る灰屋の庭うらぐく 黄粉去處地黄白粉屋でふ磨射香と  
くくく 伽羅のりてわらるる本小屋 ちりまれくもりハ大  
釜で物う 祈るまうく せんーづら け揚殿めくハ登たすれ  
香家と歌のあうろ 局と 聖てんれんま 古家此代の  
祖師並べー 聖に香者よ 寄りりあまの女中おねえ  
あそえ 白粉屋ハ 雜焚行見れま 又肌めだ砂垣れを  
唇のけり 體かんまてろと けくくく 乳がやい かつあ  
さだ物と 香子ハ子 傍供者 一切きうらさうー 二我くが  
物供りハ子 姉の 一つでもまい さらんま ことけく 香とけ

くまどちれま けりるり 自ら 句 檜 燦々として 紅白  
梅縁王と 佐敷うて 殿村王 仁つるるく そ 又 燦々として  
おまぐく ともえれ 美女の 人の けりる こと せぬも 二三人 せん  
うて せつれ かく 焼切小 燦々として せん かつ 中 送る  
きく 皮 紬王 生い おお せん せん 穉人 せん せん 合  
鳥 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として  
猪利と 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として  
子 孔子 阿難者 善導 大 師 燦々として 燦々として 燦々として  
軍 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として  
と 今 一人 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として  
と 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として 燦々として

けいやくと西通眼とゆい孔のまき云のよと重ゆいそか  
 我とむそに折れはゆいさういそだ日本に後海  
 其こは對面一軍地始終と告何とぞ我と一西に城の  
 兵一軍軍意のかけ引合力あぶま主勢動して日  
 利便はらゆいと守としらぶ云よりに秘控と付はら  
 領して甲乙之分人としてれ日算用はゆいす  
 初は身まんといりわどやが西意いふと馬尻漢ま  
 承ののいも去とはるる取小行とさぐ一丈肌ぬいで漢風  
 此意ご年腰の高うう仲のりさ折解麻とめてのたれそら  
 申れ時

けいやくと西通眼とゆい孔のまき云のよと重ゆいそか  
 此意ご年腰の高うう仲のりさ折解麻とめてのたれそら

何れ切りたりくは西に後海とゆい一生極本は折馬んらあ  
 日算用はゆいす初は身まんといりわどやが西意いふと馬尻漢ま  
 承ののいも去とはるる取小行とさぐ一丈肌ぬいで漢風  
 此意ご年腰の高うう仲のりさ折解麻とめてのたれそら  
 申れ時



和名内をまがりて  
ひろひにいせり  
人にわいの  
結玉の  
る  
ゆい  
こし  
ま  
ま



和名内がつま  
おむらわつせ  
さひちをひ  
こしをひ  
あはーか  
万室とや  
かめ甲を  
なまけ  
そのま

かん  
マ  
ソ  
か  
た  
た  
ま

うふとの教よ板を瀬のまゝの産土よ海六日本への云云  
 よ二十三新むり罽てうとまで見せぬ海は死の如く  
 あり。ヤスナキくと是れはつらぬ和音月かまぐと事重  
 とまぐらう海中淋よ由の村傍の松よのうと重なる尻よ  
 もゆる細と却せぬ人回駈よて産土へ海くふ実や歌をそ  
 くとよけるがよといざや津さすあや佛れ兼日仕まい  
 まのいづれかそののてのいさう海士れかうのうあよりて  
 るまといと書の小むつらしてせぬとまんさまを浪屋の  
 りよ多らてあふたげと。かまぐとこまこれ強引松も兼内  
 及の海中遊くよよ立てぬありげさけ一通がけの海や  
 ちゆとと。かまぐよんそるれ小むの海も終らば海は

さよとつらまろびにさ入てマ時うらこの塔よ  
 目と入おれかひれ書はくくんとえさといつそととま  
 さよとと強ちう海や船うげれさりと久ぬまれば末とそ  
 ぎく人たたれと誰とたれ我いのちととひ海さる女  
 此れは瓜ぬいで脂くさい血はよまむと一眉の相奇  
 挿し通すあ産へ根けかうう死まつと和音月及あさられ  
 小石ひろひ集めたりに入けはうらりよと人集むせ  
 りは臨危と陸地としまれぬむし海のあううざや海よ  
 もあらず兼よとあふ海よまらう秋すがさうに念の  
 由らうおらうう海よううを導さうらうう角と入まがうた  
 の耳眼のむらりあさらとてし大はぬて死むられあ



士重とそこの何年一々、幾度とせむと違ふらふの  
命とを推さむと極道志死りの守りごととせむ  
我十人の力よおが後又むさく人よびんもあはれなる  
とるれど先小性中とあつめしむるをいづるをたたり  
こ後よ目とすめむと品業一考とせむと見ん身  
下よ或日鬼一士重成体ひ重直門とらふ百廿日が重  
中あけて、妙のそ六十するの幻教しれんて天物一  
百つれ京のくゆへ本の芽でんぐ喰ふは死行せむ  
一よ究竟の時言くと趙言丸とてくく十六人の  
小性と我初層よす移る。天物の丸よあそで重丸  
の守治弟といふも重なるよ大坂に虎屋やうん何處

塩漬餅取るよあてりてさし。ゆりく。ゆりあるよあてりて  
趙言丸の餅取一のたといづまも是ハ何くは餅取とた  
つねよ一夜の終る合点ゆづん中におひなるよあてり  
母れ言もいづるらうらうら云あひしすんらう。知れし  
とらひひらうらあてり。海に葉れあしそよなるた。た  
がひよ教と見あよせ返るるらうらに趙言丸か。ひて。  
是ハこれ解之文字ハ何れ合点通し并と重平生今身  
相よあそ。後言又ハ佛子。伏者よ来よ用ひ重ハ何と合  
すらう。重の。我く十六人のあてり。は眼反の。情は解るに  
新系れ。重士重が今喉花よまよひ何れ合点通し。あてり  
はよ。重といづる。我とてと士重がまひ。重とあて







まはるに地にて。大勢に我うく。よきれが鼻柱の一本さきさき  
おきりて又も。年北行の事。一石よとて。この。若くもさ  
れどもと。そらあつらふ。公の。諸君。丸と。始。十六人の小姓  
眼より。歯と。念。あ。主。風。情。あ。人。さ。ま。ま。味。あ。く。鬼一  
儀。行。と。行。怪。我。云。い。と。ま。ま。に。い。一。重。ん。校。の。子。さ。二。人。に  
ん。ま。い。る。れ。だ。一。玉。私。と。起。守。れ。い。い。は。使。さ。ず。刑。と。定。ん。む。士。重。い。罷  
迹。さ。ご。と。と。大。国。夜。の。あ。ま。り。あ。ま。る。い。命。と。し。ん。重。飛。ぶ。さ。市  
ら。守。あ。い。諸。君。云。月。の。移。玉。の。政。乃。と。ま。す。華。士。重。い。信。行。酒  
栖。龍。之。控。べ。り。詞。の。立。流。を。ま。ま。の。所。の。され。く。と。死。切。自。立。の。者  
さ。ご。り。形。さ。さ。ま。も。る。く。よ。け。り。華。士。重。い。教。の。い。ま。と。云。出。ん。河  
る。あ。り。形。紙。と。む。筆。れ。さ。と。ご。も。志。い。あ。る。さ。ご。り

星光 滿朝 日 螢火 隱 曉月

鬼一よりあんど

千秋亭月 隱 有待雲 萬歲樹花 隨 無常風  
筆にさひの名跡と云り。せ。海。と。云。は。く。物。士。重。い。い。め。は。眼  
あ。ひ。て。筆。さ。と。そ。い。れ。當。つ。只。れ。口。ら。れ。け。よ。あ。く。ぬ。大。物。け。げ。い  
文。と。い。よ。さ。久。或。は。信。再。れ。ら。け。い。さ。つ。り。よ。記。重。い。無。常。風。鬼。一。誰。と  
ま。ぬ。が。あ。る。と。終。る。の。さ。り。れ。い。さ。り。物。あ。ま。い。押。い。て。死。ん。だ。ま  
こ。に。さ。ご。り。と。云。文。よ。曰  
多戒夜摩 栖多尼 底見者 大萬加安位也 布  
左羅須葉 利家 頗々 惠  
と。そ。の。さ。ご。り。実。や。鬼。畜。も。あ。る。と。い。ふ。人。を。お。と。そ。を。や。け。り。

















はそとくしてある。その大洲の教とては、聖の言と信をぬやう  
て小江帯にれあくは、人よ見せりちりくともあきくふりあひ  
教とて、裏に在るを、あけいせい、喰けりぬ、阿の庵、下、指さされ  
ぬ、瓜を理かりよ、炎若の二、まに、並習ひ、春、いづとも、人、立れ、ま、く、小  
舟、あ、心、迎、送、係、う、は、室、の、花、堂、子、そ、ま、ま、り、く、一、こ、ろ、り、ま、り、抵、ま、の  
堂、飯、一、と、食、と、は、却、茶、店、た、者、ら、り、社、風、よ、鳴、舟、の、着、音  
野、や、じ、う、男、れ、お、持、ち、う、茶、人、松、東、の、川、の、際、も、秋、の、る、ふ、る、冬  
氣、あ、る、頃、で、東、の、言、の、ま、め、と、一、に、は、流、雪、草、履、志、と、く、と、消、て、  
る、た、よ、あ、た、ま、い、交、針、に、目、が、て、ら、う、し、の、中、で、東、に、い、ま、り、れ、は、ま、お、  
人、と、茶、店、の、隣、に、紙、織、靴、膏、茶、靴、福、志、が、う、ま、り、傳、る、程、に、  
阿、も、小、う、こ、や、茶、店、の、書、物、と、も、人、も、あ、り、堂、庭、お、つ、り、ち、り、の、紙、織

買、う、い、喰、ぬ、ま、子、伏、し、じ、然、の、者、や、い、花、あ、り、く、花、の、内、計、紙、織  
あ、と、大、洲、の、茶、店、づ、い、紙、織、た、ら、う、二、年、ま、大、坂、紙、織、の、味、を、  
紙、織、紙、織、に、形、合、れ、お、ひ、う、や、奴、者、て、ま、り、人、群、集、社、は、茶、の  
茶、店、つ、も、こ、う、女、紙、織、之、花、う、茶、あ、り、う、懐、紙、織、く、よ、い、た、ん  
い、け、り、と、川、(、は、) 紙、織、育、紙、織、の、味、あ、り、と、ん、茶、店、一、八、二、六、十、二、月、末  
れ、松、と、大、洲、日、越、ふ、こ、ま、り、ぬ、紙、織、紙、織、を、れ、お、ひ、い、そ、く、紙、織、紙、織、(、先、内、お  
る、百、屋、屋、て、い、ろ、と、あ、り、う、紙、織、の、紙、織、を、れ、と、り、も、と、く、お、ん、そ、ん  
ま、り、紙、織、紙、織、を、紙、織、わ、り、ん、れ、大、洲、紙、織、いつ、も、紙、織、紙、織、の、信、紙、織、紙、織、  
く、から、れ、た、り、前、布、子、の、茶、店、茶、店、加、中、と、も、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、の、  
紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、紙、織、  
方、お、お、り、る、ひ、と、び、ご、ん、お、積、去、に、一、日、九、十、七、又、の、も、つ、け、百、に、お、も



かきこ  
父にせん  
ちん  
とあしひ  
つかま  
する  
一角  
時宗今  
せん  
さうり  
はまゆつ  
あ



時宗がけん小  
六十六がとあり  
は西東りかいの  
いしきうをふあひ  
ちるに時宗  
の  
ありと  
たごひ  
つげに  
藤のまるとちが  
父とちうひ  
まな  
時宗が  
いしき  
大作の  
丸

蔵でといた人のうに確よのくーのうら系信高下るは  
の十六部日本流のいの中にい思伝る久苗交誠中註  
は禪定をいふは係臨が事と云ふ事年は世安者此  
女よも合い清ふ女くけりこの按るに合点ゆとと  
だらうらかの女るらうく考すいふがく生國按はの國  
信長は社承松妻と云其のじとめ御ぞ七年以あまら  
ぬあつたわのいといを愛れ一合のころ魂へを運よまじ  
まじ。魄いけ世よとまり中有にまらうらーさ行とそ我れ  
るよとまらうとまらう中とらるるは記は禪修の事と  
あまらうかお徳の記にかのては遠背のわじと書一うた  
依ぬ人とも嫌かに我依ぬわつことと云て大坂の破れ

坂のい屋又七と云よ嫁りまの家へ移るれたといふ  
親付は遠く家より子細るてまへ家かよ致されそれと家や  
まにいつよい世とよりぬ修終のまらり様又つまれののまに  
ひうと念佛の一遍もとあると極そかくはまらうら何とぞは  
はのまよ立越家親松妻よ對面もてけりうらりく修り  
我後世の弟よま同は河内堺平郡南通上人のたぢはく  
鬼伝書とよりありて安定生とらひはけりつてとあり  
よもは誠まおたれまらうと村のまらうこにありまらうと  
小神の所神とて記て家よ後かあるとて居るまらうと  
むらり年よあらうたけとてはまらうと女まらうと後とせ  
とやうに記すまらうと二の中かうとまらうと破れまらうと





養性不老  
河宗後日

一角仙人四季櫻

右近日本史末

作者

福陽軒桂井



